

関西電力大飯原発3・4号機の再稼働絶対認めな！

大飯原発の真下にも「断層」が



4月24日小浜市泊海岸で開催された再稼働許さない緊急集会
これには近県からも含め400名が参加。

「大飯原発の安全宣言は疑問 政治判断が原発震災を招く」石橋克彦氏より

・・・大飯原発の耐震設計の基準は、2本の海底断層が連動するマグニチュード7.4で、最大化速度700ガルとしている。関西電力は熊川断層も含めた3連動の可能性はないが、「念のため」として計算し、760ガルとした。これはストレステストで限界とされた1260ガルを下回っているから大丈夫、としている。

しかし、この760ガルは二種類の評価手法のうち、結果が小さく出る手法で求めたものに過ぎない。「8クラスの巨大地震では、最大化速度は1260ガルをはるかに超える可能性も否定できない。・・・

原発問題住民運動福井県連絡会

わたし達は、大飯原発の再稼働を県が認めないよう、県庁前で、座り込み・宣伝行動を展開しています。ぜひ、あなたもいっしょに行動に立ち上がりましょう。

豊かな自然と歴史、日々の暮らしを子や孫たちに残し伝えるためにも。

敦賀原発真下に 「活断層」か

保安院は日本原電敦賀1・2号機真下の断層が2〜3万年前以降に活動した可能性があることを発表しました。これまでに専門家や私達住民団体がこれらの断層の危険性を指摘していたことをよびやく、保安院が確認し、発表したものです。原発を活断層の上に接することはできないことに「設置基準」では規定されています。まさに、廃炉しかありません。

大飯原発真下にも断層

大飯原発真下にも断層がありますが、関西電力は「活断層ではない」としています。でも、敦賀原発では「活断層でない」とされてきた断層が「敷地内を通っている活断層浦底断層と連動する可能性が指摘されたのです。

大飯原発の海上の2つの断層と熊川断層が連動して動く可能性もあります。関西電力はこの3つの断層が連動しても、耐震性に余裕がある」としています。しかし、この耐震性の予測は意図的に過小なものとなっていることを神戸大学名誉教授 石橋克彦氏など専門家も指摘しています。こうしたこともハッキリしないままの再稼働はまさに「拙速」です。

知事は 大飯原発再稼働認めらな！ これが多数の県民の声です

福島事故の原因究明も、
抜本的な安全対策もないまま、
なぜ、急ぐのか！

ハガキ、ファックス送付先
福井県知事 西川一誠様
福井市大手3丁目17-1
電話 0776-21-1111
ファックス 0776-20-0620

20-0622
原子力安全対策課、秘書課などへの要
請書提出など創意工夫の行動を。

お手盛り安全評価

原子炉を作った三菱重工が
自分でストレステスト

大飯3・4号機の原子炉を作った三菱
重工が、安全性を評価したストレステ
スト(耐性試験)の作業を行ったことが
明らかに。客観的であるはずの安全評
価が、第三者機関でなく原子炉製造メ
ーカーによって行われている実態はま
さに「お手盛り」の安全評価です。

福島原発事故は未だに収束していません。原
因究明もまだ途上です。
にもかかわらず政府は再稼働を早期に決めよ
うとしています。今、全国で「安全策もないま
ま再稼働急ぐのか」の声が広がっています。
おおい町議会の了解判断を受け、おおい町長
と知事は「了解」に向けての判断を急ごうとし
ています。知事が参考にするという県議会の全
員協議会も近く開かれることになっています。
おおい町議会の再稼働判断には、全国各地か
ら360件を超える抗議の電話などが集中しま
した。当然です。おおい町の住民説明会でも、
「規制庁をつくり、安全基準を作ってやる体制
にしないと国民は納得しない」など慎重な判断
を求めた意見が相次いでいた中での議会の態度
表明ですから。いまこそ、再稼働反対、再稼働
認めらな！の声を県議や知事に集中しましょう。

知事、県議への要請の集中を